

第18回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成24年2月16日(木) 午後2時
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎401会議室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員
染野 智司 委員、野路 丞一 委員
高市 正高 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員、小泉 尚子 委員
倉田 繁夫 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長
高橋 とし子 コミュニティ課長補佐
須郷 和彦 コミュニティ係長
田中 大輔 主任主事
- 6 傍聴者 1名
- 7 協議事項
(1)地域まちづくり協議会モデル地区事業報告会の総括について
(2)今後の進め方について
- 8 協議状況 開 会 午後 2時00分
閉 会 午後 4時25分

I. モデル地区からの報告

(1) 流山小学校区まちづくり協議会（梅谷委員）

- ・ 2月4日報告会
- ・ 平成23年度総会準備（日時未定）
- ・ 平成24年度の企画づくり
- ・ 4月7日、8日のフェスタに向けての準備

委員からの質問等

- ・ フェスタの全体像が見えないがきちんと進んでいるのか。
進んでいると思う。過度に首を突っ込むのはどうかということ
ことで控えている。まちづくり協議会だけではなくて、商
工会議所からも企画にメンバーが入ってやっている。
- ・ フェスタについては、事業報告会以来関心を呼んでいる。一番
の切り口は行政がどこまで関与するかという点であるが、あく
までも主体はまちづくり協議会である。

(2) 新川まちづくり協議会（染野委員）

- ・ 地域の課題お宝発見プロジェクトの中の主に地域の課題につ
いて、市長に報告した。
- ・ 自分たちでできることを洗い出した上で、市道の改良や小川
の清掃等については市の協力が必要なので、市の状況につい
て知らせてもらえるような体制をとっていただけるとい
うようお願いした。その結果について新川まちづくり通信No. 10
に記載している。
- ・ 市への協力依頼をし、現在は照会、回答待ちの状況である。
- ・ 回答をいただいた上で、課題解決について、来期はどうした
らよいか検討していく必要がある。
- ・ さらに、お宝発見では地域で喜ばしい、誇らしい点をもっと
掘り下げて、史跡等の状況をもっと調べるために関連NPO
とも話し合いを始めた。
- ・ 役員会では来期について話し合った。
① 4月14日の総会に向けて来期の計画を練る。

② 来期の計画として出された案

- ・ 子どもたちを相手にしたプロジェクト
- ・ 高齢者を相手にしたプロジェクト
- ・ 地域の課題解決、お宝発見プロジェクト
- ・ 防災関係

(3) 流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会（野路委員）

- ・ 第3回から参加。今回第5回は今年度最後の分科会であった。
- ・ 1. 分科会 2 その他 ということ報告、検討があった。
- ・ e 防災マップコンテスト優秀賞受賞し、2月4日の事業報告会の時も展示したが、こういった点は成果としてあげられる。
- ・ 次年度についても、引き続き、「安心・安全多次元協働事業」をやっているということである。
- ・ 県からの補助金を受けた実績を踏まえ、平成24年度も受けられるように申請していく。その申請結果を受けて、5月以降に平成24年度の会議を開催していく予定。
- ・ 今後は、eマップの活用の拡大を検討する。
- ・ 来年度について、地元自治会のメンバーが加わってのまちづくり、小学校区内での連携の働きかけを提案した。
- ・ 今年度最終回ではあったが、子ども関連、育児中の親のNPOのメンバーも参加するなど、大きなまちづくりをしていると感じた。

委員からの質問等

- ・ 事務局の中心者はどなたか。
新都市ライフの岡嶋氏が、マップ作り、レジュメ、会議運営等、事務局の中心となっている。
今後地元住民にどうやってシフトしていくかが課題である。
- ・ 今後は、マンションの管理組合を巻き込んで、マンション連合のようなものがないか考えている。
- ・ eマップ作成は難しいのか。またコストはどうか。

データがあれば入力は比較的簡単であるとのこと。

注文があれば作れるので、地域まちづくり協議会にも紹介できるのではないかと。

- ・ eマップの利用方法について

防災時を想定しているマップであるが、実際に震災時にパソコンやインターネット環境が保たれている保障はない。しかし、緊急時、震災時に必要なものは個人によって異なるので、普段からこのマップを使って個人で確認しておくことは必要である。自らを救うものは自ら求めなくてはならないということである。

- ・ 今後の展開について

介添え手順書と合わせて検討したり、学生を使ったスマートフォンでの利用についての実験という提案もあった。

- ・ 安心・安全まちづくり協議会の立ち上げ時期は？

平成17年に流山おおたかの森駅ができた時に開発企業と江戸川大学の教授等で設立。当初は大手企業も入っていたが、建設事業が終わると参加しなくなった。そこで、学識的観点からのまちづくりになっていった。

- ・ 平成17年の設立からの5年間の運営、資金面、メンバー、活動はどんなものだったのか。

後日調べて回答する。

Ⅱ. 地域まちづくり協議会モデル地区事業報告会について

(1) 事務局より報告

- ・ 平成24年2月4日（土）10時より12時
- ・ 90名参加、アンケート回収42名
- ・ 参加者は、自治会56名、地区社協10名、民生・児童委員5名、NPO7名、地域まちづくり協議会12名の計90名であった。（*受付票ベース）
- ・ 「報告会をどのように知ったか」については、広報ながれやま4名、市のホームページ2名、案内25名、友人・知人か

- ら1名、その他（市からの手紙、コミュニティ課など）4名
・ アンケート結果は配布資料を参照のこと。

内容について

- ① 流山小学校区まちづくり協議会の発表
事業の進捗状況とこれから進める内容としてフェスタ関連のことについて
- ② 新川まちづくり協議会の発表
子どもを介したイベントを中心に、お宝発見、地域の課題発見等の報告、餅つき大会の様子を新川小学校長のコメントを交えてプロジェクターを用いて発表
- ③ 関谷先生からのコメント
それぞれが特色ある内容でまちづくりを進めている。地域の特徴を活かしたまちづくりは絶対に必要であり、進めていくべきである。
- ④ 質疑応答については、時間の関係上1名のみであった。
* 餅つき大会は広げてやるものなのか。自治会でできることであり、もっと既存の団体、自治会を重視すべきではないか。

流山小学校区まちづくり協議会の回答

各団体が集まって知恵を絞り、地域性の広がりをもっていってはどうか。

新川まちづくり協議会の回答

地域でできることは地域の人たちでやっていくことが基本であり、それから必要に応じて輪を広げていけばよい。

関谷先生

地域の特色を活かしながら、まちづくりを進めていくべきではないか。

- ⑤ 課題を一つずつ解決していきながら、住みよいまちにすること、住みたいまちにすること、住んで良かったまちにすることが最終目標なのではないかとまとめて終了した。

(2) 委員からの意見・感想

① 全体を通しての意見・感想

- ・ 形式がすっきりしており、わかりやすい会議であった。
- ・ 発表を聞いている様子を見ると、多くの方に満足していただける内容であったと感じる。
- ・ 今回ほど、真剣にまちづくりについて考えた機会はないのではないか。
- ・ ぜひやってみたいと多くの方に感じていただけたのではないか。
- ・ 一昨年の説明会に比べたら具体的な発表ができたので、見ていた人も大部分が好意的にとらえてくれたと思う。

② アンケートについて

- ・ アンケート回答者の参加団体の情報はとれているのか。ほめていただいた方がどんなどころの人なのかが知りたい。
自由な意見をとるために無記名式にしており、その情報はとれていないが、中には記名された方もいる。
- ・ 流山小に対する回答、新川に対する回答、自由な意見の関連（同一人物がどこに対してどう回答しているか）を知りたい。
- ・ 自由な意見の最後の指摘事項などは後日送ってきたものなのか。
後日届いたものである。
- ・ 会議自体は良かったと思うが、批判や指摘事項については真摯に受け止めて、委員会としても検討する必要がある。
- ・ 90名中42名の回答だが、残りの50名弱の人も反対であれば反対というと思うので、全体としては賛成の立場の人が増えたと考えられる。
- ・ 案内状を出した数（自治会173、地区社協15、NPO約100の合計約300）のうち、団体としての出席が70ということはどうとらえるか。もっと参加してもらえることが望ましかったのだが、この数にとどまっていることはまだま

だ関心が薄いということではないか。簡単に今回の報告を出すかどうか。

- ・ 明らかな誤解（流山小学校区への指摘事項で、南流山小学校区のことが指摘されている件）については、そのまま放っておいてよいのかどうか。
- ・ 新川については、他の自治会がやっていることと同じではないかということに対する説明がうまくできなかった。新川まちづくり協議会でやっていること、テーマは、新川の自治会ではできないことであるが、そこをきちんと伝えられなかったことが残念である。そういうことをあらためて伝える機会がないのかどうか。
- ・ 餅つき大会をやっている自治会があることも事実である。しかし、173の自治会の中で、自分の自治会だけでできている自治会が果たしていくつあるのか。実際には15～20だろうから、150自治会はやっていない。そういうことをやっていくのが地域まちづくり協議会だという導き方もある。
- ・ 一連の流れで餅つき大会をやっているので、餅つき大会だけを取り上げられても困るという意見があったが、一方では、説明者の責任であるとの意見もあった。
- ・ 19自治会の中で餅つき大会をやっている自治会は4つある。今回まちづくり協議会で餅つき大会をやったことが、やっていない15自治会にとって価値があるかどうかは一概に言えないことである。4つの自治会がやっていることを、皆がやっていると言っていることはコミュニケーション不足だと考える。
- ・ 新川小学校校長が涙ぐんだことがすべてではないか。地域を考えている人間からみれば効果があったと考えられるのではないか。
- ・ 一昨年の説明会時に比べ、賛成でも反対でもない中間層の理解が得られたのではないか。今後は、反対者をどうするかということよりも、理解した人が、「ではどうしたらよいか」となった時にこたえていくことを優先すべきではないか。

*意見書については、後日届いたものであるならば、その場のアンケートではないので別にするという意見と、各協議会あての意見もあるので、アンケートとしても良いとの意見とが出された。

*アンケート結果については、全文を2つのモデル地区地域まちづくり協議会に届けることとする。

③ 地区社協、民生委員・児童委員について

- ・ 地区社協からの参加が10名、民生・児童委員が5名であったが、地区社協については、15案内のうちの10ではない。極端を言えば、1地区から10ということも有り得る。
- ・ 地区社協の方々は、両協議会の発表に高齢者関係のものが入っていなかったため、地域まちづくり協議会に何を期待するのか、今一つピンとこなかったのではないか。
- ・ 高齢者福祉関係の課題についての地域まちづくり協議会への期待に応えられなかったのではないか。
- ・ 地区社協の人にとっては、まちづくり協議会が解決の1つになるということについては不十分だったのではないか。
- ・ 当初地域まちづくり協議会と地区社協とは良く似ていると言われていたこともあり、福祉関係については地区社協との十分な話し合いが必要であり、次のステップと考えた。
- ・ 話し合いをしながら、次年度は地区社協と共催の事業を考えていく。(新川)
- ・ 地区社協がリードする形で長崎小学校区からまちづくり協議会が設立されると、地域ごとの特色もあり、バラエティに富み、他の地域の人たちもイメージしやすくなる。
- ・ 地区社協が中心となったまちづくり協議会ができて、今回伝わらなかったことも含まれてくると、かなり積極的な支援が得られるのではないかと感じた。
- ・ まちづくり協議会ができると民生委員の仕事が増えると言われるが逆である。まちづくり協議会が民生委員の雑用を引き

受け、地区の1人ひとりと深い人間関係を築くという民生委員の元の仕事に戻ることができる。その人間関係が築かれれば、災害時にどうするか、かかりつけの病院等々の情報が得られる。そうした民生委員からの情報をもとに、自治会等が動くというシステムづくりができるのではないか。

- ・ 高齢者生きがい推進課から、高齢者、障がい者への災害対応について、民生委員、地区社協、消防、警察、市で、小学校区でまとまってやっていくという意思表示があったが、まさしくまちづくり協議会である。
- ・ 現在では、災害時における弱者救済に向けて自治会が動き、民生委員が動き、高齢者支援課及び消防が所在カードを配布しているというように3本立てでそれぞれ動いているが、それをまとめていこうということである。
- ・ 地域に縦割りでおりてくると不信感につながる。
- ・ 災害時においては、現場の対応における地域の認識を共有しておく必要がある。
- ・ 災害時における対応などは、まちづくり協議会があればかなりスムーズになると考えられる。

Ⅲ. 地域まちづくり協議会のパンフレットについて

- ・ 10,000部作成。2月4日報告会で配布。
- ・ 3月21日の文書配布にて自治会回覧実施（5,000部）
- ・ NPO（100部）
- ・ 各地区社協15部ずつ（計225部）
- ・ 15小学校校長（15部）
- ・ 2つのモデル地区地域まちづくり協議会には全戸配布は部数の関係上無理だが、必要数を配布（新川20部^(本日)）

***すべて文書配布日（3/21）を基準に配る。**

予定部数：自治会回覧5,000部＋360部

IV. 平成24年度のまちづくり協議会について

(1) 事務局より説明（配布資料スケジュール（案）参照）

1 平成23年度の地域まちづくり協議会モデル地区の補助金実績報告

- | | |
|-------------------|----------|
| (1) 実績報告書及び関係書類送付 | 2月下旬 |
| 会計締切日 | 3月15日（木） |
| 書類の提出期限 | 3月21日（水） |

2 平成24年度地域まちづくり協議会事業公募関係

- (1) 募集期間 2月21日（火）から3月21日（水）
- (2) 広報ながれやま2月21日号に掲載
- (3) 募集要項は、市ホームページに掲載
- (4) 平成24年第1回定例会最終日3月21日（水）予算確定
- (5) 協議会事業決定及び補助金交付金申請書送付 4月初旬

(2) 委員から

- ・ 平成24年度事業選定について、全市コミュニティ推進委員は意見を述べることができるのか。
- ・ 事業内容について知りたいし、意見も述べたい。
- ・ 申請に対しての情報交換、意見提示はできても、可否については行政が行う。
- ・ 流山小学校区地域まちづくり協議会の4月7日、8日のフェスタは平成23年度事業なのか、平成24年度事業なのか。
会計についても含め、流山小学校区地域まちづくり協議会に確認する。
- ・ 流山小学校区地域まちづくり協議会のフェスタを考慮し、平成23年度の実績報告については、出納閉鎖期間（5月末）までにすればよいので、それを考慮してもらいたい。
- ・ 4月8日以降に、新川、流山両協議会、それぞれのフィードバックの場、意見交換会の場を持ちたい。

***モデル地区については、書類と担当委員のヒアリングをもって判断するが、新規協議会の事業については、ヒアリングを行う。**

* 次回委員会日程を 3月22日(木) に変更し、地域まちづくり協議会モデル地区事業の総括についての検討を行う。

V. 次回日程

- ・ 平成24年3月22日(木) 14時より
地域まちづくり協議会モデル地区事業の総括について

(16時25分 閉会)